

带状疱疹予防接種ワクチン比較表

種類	不活化ワクチン	生ワクチン
接種回数	2回（筋肉内注射）	1回（皮下注射）
接種間隔	2回目接種は、1回目接種の2ヵ月後の同日以降から6ヵ月後の同日までに行う。	/
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長期予防効果が高い。 2回接種後、9年以上の発症予防効果が持続。 ○ 1回あたりの接種料金が高額。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長期予防効果が低い。 接種後、5年程度の発症予防効果が持続。 ○ 1回の接種で完了。
発症予防効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発症予防効果が非常に高い。 50歳以上：97.2% 70歳以上：89.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発症予防効果が中程度。 50歳代：69.8% 60歳代：64.0% 70歳代：41.0%
带状疱疹後神経痛の予防効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 带状疱疹後神経痛の予防効果が非常に高い。 50歳以上で100%、70歳以上で85.5%低下。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 带状疱疹後神経痛の予防効果が中程度。 60歳以上で66.5%低下。
主な副反応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 副反応の発症率が高い。 <ul style="list-style-type: none"> ・注射部位の疼痛（約80%） ・筋肉痛や疲労、注射部位の発赤（約30～40%） ・頭痛や悪寒、注射部位の腫脹（約20～30%） ○ 重い副反応として、まれにショック、アナフィラキシーがあり。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 副反応の発症率が不活化ワクチンより低い。 <ul style="list-style-type: none"> ・接種部位の発赤（約40%） ・注射部位そう痒感（約30%） ・注射部位の熱感、腫脹、疼痛、硬結（約10～20%） ○ 重い副反応として、まれにアナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎があり。
接種を受けることができない方	<ul style="list-style-type: none"> ○ 明らかな発熱がある者 ○ 重篤な急性疾患にかかっている者 ○ 本剤の成分でアナフィラキシーを呈したことがある者 ○ 上記の他、予防接種を行うことが不適当な状態にある者 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 明らかな発熱がある者 ○ 重篤な急性疾患にかかっている者 ○ 本剤の成分でアナフィラキシーを呈したことがある者 ○ 妊婦 ○ 免疫機能に異常のある疾患を有する者及び免疫抑制をきたす治療を受けている者 ○ 上記の他、予防接種を行うことが不適当な状態にある者
他のワクチンとの接種間隔	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルスワクチン接種の前後13日以上間隔をあける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルスワクチン接種の前後13日以上間隔をあける。 ○ 他の生ワクチン（注射剤）の接種を受けた場合は、27日以上間隔をあける。

参考文献：製品添付文書（乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」）

製品添付文書（乾燥組換え带状疱疹ワクチン「シングリックス」）

第4回厚生科学審議会予防接種ワクチン分科会予防接種基本方針部会ワクチン評価に関する小委員会（資料2-1）

第8回厚生科学審議会予防接種ワクチン分科会予防接種基本方針部会ワクチン評価に関する小委員会（資料5、参考資料8）